



修学旅行で見えたもの

先月19日(金)から21(土)の3日間、3年ぶりに修学旅行を実施しました。今回の修学旅行は、大仁中教職員はもちろん、過年度の卒業生や保護者の皆様など多くの人の「思い」を背負っていることを、強く自覚しないわけにはいきませんでした。

コロナ禍に敢行する修学旅行であっただけに、最大の目標は「無事に出発し、無事に帰着する」ことです。その実現のために、生徒には本校の最重点目標「自分で考え、判断・決定できる生徒」であることを求めました。ところが、その力を発揮した場面は予想を超えて多方面にわたり、思いのほか副産物の多い学校行事となったのも事実です。日常を離れるがゆえに気持ちが高揚し、羽目を外しがちなのはよくあることですが、それを差し引いてもなお余りあったのは、3年生の修学旅行に対する「思い」の深さと自制心・公共心が、気の緩みに勝っていたからかもしれません。

——こんな中学生を見たことがない——

実際、旅行中、こんな地元の人声が入ってきました。旅行はする人のものでもありますが、同時にそれを受け入れる人のものでもあることを再認識させられました。

例えば、バスの中で、「こちらをこんな良い気分させてくれる生徒(学校)に会ったことがない」とバスガイドさん。あいさつや話の聞き方、応答の仕方など、大中学生のすがすがしさに心が和んだのでしょうか。また、食事の場面で、「これだけ徹底して黙食できる学校を見たことがない」とレストランの店員さん。実は前日に教員から注意を受ける場面もあったのですが、再度感染症対策への意識を高めて自ら実行に移しました。その他、私の実感として、終始遅刻という言葉とは無縁な行動をした点も特筆に値します。5分前行動を徹底できたのは、ノーチャイムの学校生活により時間の観念が身についていた証でしょうか。家庭や地域が育んできた、周囲に対する思いやりや気配り、「感謝」の気持ちを言葉にする等の姿が、旅行全般を通して顕在化し、他に遜色のない旅行団にしたと自負しています。

3年生は、楽しすぎるくらいの時間を過ごせたこと、友達との仲が深まったこと、自分の目で歴史遺産を見てきたこと、奈良・京都の人話から直接学べたことなどを感想に挙げていました。今後、これまで以上に自分の考えや判断に自信をもって表現し、自分の可能性を伸ばす取組を期待したいと思います。また、1年生・2年生には、やがて来る自分たちの修学旅行に思いを馳せ、この3年生に負けない修学旅行を実践する気持ちを温めてほしいと願っています。修学旅行で見えたものは——。大中学生の可能性、に尽きます。

<文責：校長>

☆携帯・スマホ等の利用におけるトラブルに注意を！



携帯・スマホ等による SNS トラブルが、近隣市町の中高生にも多発しています。誹謗中傷の書き込み、グループ内での仲間外れ（いじめ）、個人情報や不適切な画像等の拡散…。学校では、機会があるごとに情報モラルやマナー、ネットトラブルの危険について伝えてきていますが、なかなか自分事として捉えられない生徒もいるのが現状です。拡散してしまった情報をインターネット上から消すことはほぼ不可能です。保護者の皆様には、こうした危険性を十分ご理解いただき、日頃から子供たちのスマホの使用状況を把握するとともに、責任をもってトラブルの未然防止をお願いいたします。

☆かしわ祭に向けて活動開始

10月に予定されているかしわ祭に向けての活動がスタートしました。先日、実行委員長より全校生徒へ、かしわ祭への思い、目的が伝えられました。今後は、各部の実行委員長を中心に計画を進めていきます。

生徒たちが、主体的に考え、行動する場として、かしわ祭は大切な学校行事の一つです。どんなかしわ祭を創り上げていくのか楽しみにしたいと思います。

令和4年度「かしわ祭」運営委員

* 実行委員長	菊地
* 副委員長	堀江
「体育の部」	柴田
「文化の部」	筑木
「広報の部」	加藤



☆部活動 がんばっています

いよいよ中体連の大会が近づいてきました。3年生にとっては、中学校での部活動の集大成。1～2年生は、それを支えるとともに、自分たちの飛躍の足がかりとなるよう、がんばります。

【男子卓球部】田方地区春季ランキング戦（個人戦） 優勝 堀江

【女子ソフトテニス部】第47回ソフトテニス大仁大会

第3位 大仁中A（加藤、内田、宮崎、田村、土屋、早野）

【剣道部】第36回中学生剣道大会

女子の部（個人） 優勝 宮澤歩乃花

男子の部 第3位 大仁中（渡邊、関野、古屋、秋山、

【陸上部】中体連地区予選会

女子低学年4×100mR 優勝 大仁中（平井、西島、渡邊、

女子2年100m 第7位 平井 秋元、関）

男子2年1500m 第7位 小澤

女子1年100m 第2位 渡邊



